

学会参加レポート

25th Meeting of the International Society for Neurochemistry 参加レポート

梶田 裕貴

(群馬大学大学院医学系研究科 神経薬理学)

2015年8月23-27日、オーストラリア・ケアンズにて第25回国際神経化学学会が開催されました。以下にそのレポートを報告させていただきます。

海外の学会（飛行機）というものに全く慣れておらず、空港で色々なものを没収されながらも何とかケアンズに到着したのは朝5時過ぎでした。ホテルまでは徒歩で1時間。行けないこともないと考えていた矢先、他研究室の先生にチャトルバスに誘っていただき、快適にホテルへ向かうことができました。残念ながら、早く着きすぎたため部屋には入れませんでした。

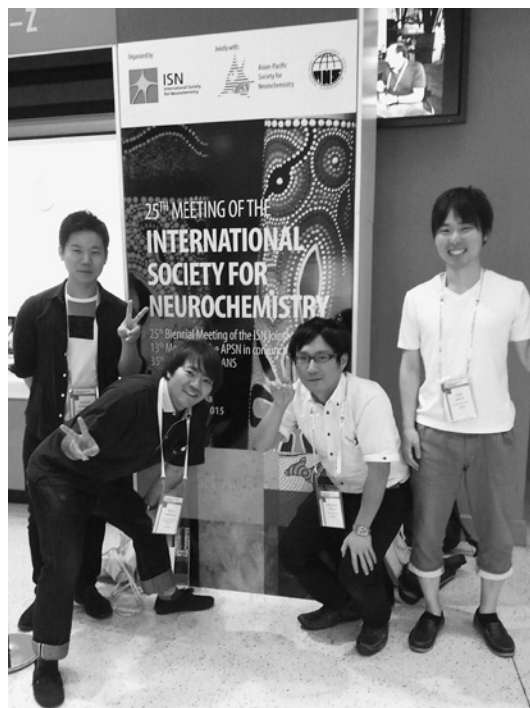
ケアンズはオーストラリア大陸の北東岸に位置する港湾都市です。南半球のため8月は冬に相当しますが、朝と夜に少し肌寒さを感じる程度で、昼はシャツ一枚でも過ごせる程の快適な気候でした。街中には日本食やアジア風の店も多く、日本人にも過ごしやすいという印象を受けました。一つ難点を挙げれば、物価が非常に高く、コンビニのペットボトル（500ml）の水が300~400円もしました。長期滞在するには厳しい環境です。

私にとって初めてのISNであり、いささか緊張しておりましたが、学会会場に入って最初に感じたのは、「おや、日本の学会と余り変わらないんだな」という印象です。規模の違いはあれども、やはり同じ学会であり、ホールに入り、着席し、講演を聞き、質問をするというスタイルは全く日本のそれと変わらないことに気づき（当たり前ですが）随分安心したのを憶えています。ただ、ポスター会場のパネル配置が日本の縦並びとは異なり、ミラーハウスの様で、一端自分のポスターの前を離れると再び自分の場所まで戻るのに非常に苦労しました。また、お昼に配られたランチボックスを通路や路上で平然と平らげる海外研究者のワイルドな姿に軽いカルチャーショックを受けました。

講演は多岐に渡る分野において様々なテーマで行われており、それが朝から複数の会場で並行して夜まで行われるため、国内学会にも言えることですが、前もって聴講する講演を絞っておくことがポイントになると思われます。今回スケジュールを組んでおくことを怠った自分にはとても慌ただしい学会となりました。参加した講演で印象的だったものを幾つか挙げてみます。まず、24日に開催された「Young Scientist Lectureship」は非常に一般的な脳の働きを切り口に、シナプスにおける様々なタンパク機能までを網羅し、私のような若手の研究者が是非とも知っておくべき基礎的且つ重要な知識をおさえることに役立ちました。また、26日に行われた「How to publish a good paper?(Quality, Reproducibility and Impact)」というタイトルの講演では、論文の投稿先の選び方や、タイトルのつけ方、コピペの危険性、データの示し方、検定方法の選び方などの、主に論文投稿経験の浅い（無い）若手研究者を対象とした論文投稿における基礎知識を学ぶことが出来ました。同じく26日の「Neuroepigenetics: from

Neural Development to Adult Neurogenesis」のセッションではヒストン脱アセチル化酵素とアストロサイトの分裂の関係などのグリア細胞の細胞周期に関する最新の知見を得ることが出来ました。今回、私はポスター発表で参加しましたが、何人かの海外の研究者と英語を用いて説明し、議論をするという国際学会ならではの経験を得た他、自分と同世代の世界の若手研究者にどのような人がいて、またどんな研究をしているか、などを知ることができました。ウェルカムレセプションやフェアウェルパーティでも彼らと研究内容、大学（研究所）生活、将来の展望などについて大いに話し合い、研究室に閉じこもってはいは得ることのできない同世代の交流という経験を得たことは今回の学会の一番の収穫になったと感じています。

最後になりますが、今回、ISNに参加するにあたり、ポスター作製、トラベルアワード申請などに関して、多くの先生方から御助力いただきました。このような貴重な機会を与えて頂いた先生方にこの場を借りて深く御礼申し上げます。



大会会場入り口にて、他のトラベルアワード受賞者らと（右端が筆者）